

学校法人会計と企業会計の違いについて

学校法人会計と企業会計どちらも会計取引は発生取引により認識され、資産、負債、収入、支出の額が算定され、複式簿記の方法で仕訳されます。
更に、帳簿に記帳され、試算表が作成され、所要の手続きを経て決算書が作成されます。

しかし、この両者にはいくつかの点で明らかな違いがあります。まず、両者の違いとして会計の目的が異なります。

企業会計の目的が、会計によって収益と費用を正しくとらえて営業年度の正しい損益を計算し、併せて企業の財政状態、すなわち資産、負債及び資本の状態を知り、より収益力を高め財政的安全性を高めること、および事業活動の成果と財政状態を利害関係者に開示するところにあります。

一方、学校法人の会計は、その収入の多くが学生生徒からの納付金や国や地方公共団体などからの補助金で構成されている極めて公共性の高い法人であるので、企業のように収益の獲得が目的ではなく、収支の均衡の状況と財政の状態を正しくとらえて、法人の永続的発展に役立てること、および学校経営における教育研究活動の健全性の程度を財務面から測定し開示するところにあります。

～両会計の財務諸表の比較～

●学校法人会計における財務諸表

- 1.資金収支計算書……当該会計年度に行った諸活動に対応するすべての収入、及び支出の内容を明らかにし、支払資金(現金及び預貯金)の収入及び支出の顛末を明らかにするものです。
- 2.事業活動収支計算書…当該会計年度の事業活動収入と事業活動支出の内容及び均衡の状態を明らかにし、学校法人の経営状況を表すもの。
- 3.貸借対照表………決算日(年度末)における資産、負債、基本金および収支差額を明らかにし、学校法人の財政状態を表すものです。

●企業会計における財務諸表

- 1.損益計算書………獲得した収益とそのために費やした費用を対比して実現した利益を表します。
- 2.貸借対照表………ある時点(決算日)において、保有する資産と、負担している負債、そしてその差額としての資本を一覧表示した報告書をいいます。
- 3.キャッシュフロー計算書(上場企業)

【資金収支計算書とキャッシュフロー計算書】

学校法人会計における資金収支計算書は企業会計におけるキャッシュフロー計算書に相当すると言われています。資金収支計算書の特徴は、収入と支出をすべて現金預金で行われたとみなして表示し、計算書の末尾に実際は現金預金の収支でない期末未収入金、前期前受金、期末未払金など資金収支調整勘定を差し引き調整して、期末現金預金残高を翌年度繰越資金として表示するところにあります。

キャッシュフロー計算書は期中の実際の資金の収支を表示して期末資金残高を表示します。この場合の資金とは現金と現金同等物とされ、学校法人の資金である現金及び預金より範囲が若干広くなります。

【事業活動収支計算書と損益計算書】

事業活動収支計算書は計算技術的には企業会計の損益計算書に似ていますが、この二つの計算書の本質的な違いを示すのが基本金組入の概念です。

学校の持続的経営のために取得された固定資産を「保持すべき資産」として収入の合計である事業活動収入から事業活動支出を控除し、基本金組入前当年度収支差額を計算した上で、その額から基本金組入額を控除し当年度収支差額を算出します。

これは企業会計と学校法人会計との目的の違いに由来しますが、企業会計の損益の概念とは異なるものです。

なお、事業活動収支計算書は貸借対照表の翌年度繰越収支差額の計算内訳になる計算書ですが、これは企業会計の損益計算書が貸借対照表の資本の部の当期純利益の内訳計算書であるのと同じです。

【貸借対照表】

学校法人会計と企業会計との貸借対照表の違い

○配列方法の違い

（学校法人会計）固定資産から配列される「固定性配列法」を採用

（企業会計）流動資産から配列される「流動性配列法」を採用

（但、電力会社、ガス会社等、一部の特定業種を除く）

○資産と負債の差額表示部分の違い

（学校法人会計）「資産－負債＝正味財産」で資本という概念はない。

※正味財産＝基本金＋翌年度繰越収支差額

（企業会計）「資産－負債＝純資産」で純資産を資本という。

※資本・・・主として株主から調達された資本と営業活動から得られた利益の累積額である利益剰余金等からなる。

※ 他に学校法人会計にあつて、企業会計にはない勘定科目がありますが、それは資金収支計算書、事業活動収支計算書のところで説明いたします。